

職場環境が原因!?

「職業性難聴」

ドクターズコンテンツシリーズ # 29

職業性難聴とは?

長期間、騒音にさらされ、徐々に進行する難聴を「騒音性難聴」と言い、そのうち、大きな音にさらされる職場で長年働き続けたことにより起こった難聴を「職業性難聴」と言います。

■どんな職業の人がなるの?

職業性難聴は、建築現場や工事現場などの騒音下で仕事をする人、または、イヤホン・インカムを装着し、絶えず音を聴き続けるような仕事をする人がなりやすい病気です。通常は、両耳に聴力低下が認められますが、イヤホン・インカムを片耳のみ装着するなど、状況によって片耳だけの難聴も報告されています。



Doctor

あやせ
耳鼻咽喉科

中井川 弘毅 先生



自覚症状がない人がほとんど

騒音性難聴は、自覚症状がないまま病気が進行してしまいます。唯一の症状と言えば耳鳴りがするくらいで、健康診断の聴力検査を受けて初めて聴力の低下に気付く人もいます。なぜ、自覚症状がないかというと、騒音性難聴は日常生活にはあまり支障のない、4000ヘルツ付近の高音域の聴力から低下していくからです(ヘルツは音の高さを表す単位で、音が高くなるほど数値が大きくなります)。

! 放っておくとどうなるの?

職業性難聴は、低い音域である日常会話は問題なく聴き取れるため、初期の段階で異常に気付かない人がほとんどです。しかし、そのまま騒音にさらされていると難聴はその他の音域にまで進行し、気付いた時には耳鳴り・めまいの症状も併発し、取り返しがつかなくなってしまう人もいます。

騒音性難聴の発症や進行を防ぐには

職業性難聴に限らず、難聴は、一度悪くなると治療がないというのが現代医学の定説です。難聴になってしまってから治療を行っても、元の状態までの回復は期待できません。

■予防が大切

労働基準法では、騒音の大きさによって推奨する耳栓やヘッドホンといった防音保護具が定められています。適切な防音保護具を使わないと効果が得られないので事業主の指示に従い、きちんと装着するようにしましょう。

■意識的にチェックしよう

騒音性難聴の特徴である高音域の音と言うと、鈴虫やセミの鳴き声、ソプラノ歌手の歌声などです。このような高い音が聴こえにくいと思ったら、騒音性難聴かもしれません。また、「キー」、「シー」といった高い音の耳鳴りがする場合も要注意です。しかし、なによりも確かなのは定期的な聴力検査です。検査の結果が正常値内でなかった場合は、耳鼻科で精密検査を受けることになります。

知っていました? 労災申請できること

職業性難聴になると、労災を申請することができます。労災認定が受けられるのは、85 デシベル以上の騒音下で5年以上働いてきた人です(デシベルは音の大きさを表す単位で、音が大きくなるほど数値が大きくなります)。

一方、騒音下でなくてもイヤホン・インカムを装着する仕事の場合も、労災認定が適応されるケースもあります。

こんなケースはあり? 職業性難聴の労災申請

● 転職を繰り返しても申請できるの?

累計で5年以上、騒音下で働いていたことが証明できれば認定されます。職業性難聴は、進行性の病気なので、転職の間が半年~1年ほど空いたとしても申請できます。

● 仕事のストレスで耳が聴こえなくなったのだけど…

心因性による難聴の場合は、認定されません。

● アルバイトやパートでも申請できるの?

労災の保険給付は正社員のみならずパートやアルバイトも受けられます。

手続きや検査については相談しよう

職業性難聴の労災申請には、聴力検査や書類提出が必要となります。

ただし、職業性難聴は職場環境に大きく依存するため、退職してからでない申請することはできません。職場に在籍している間は申請できないので覚えておきましょう。また、老人性難聴や内耳の障害など、ほかの症状が加わってしまうと職業性難聴かどうかの判断が難しくなり、労災申請しても却下される可能性が高くなるため、退職してから1年以内をめどに申請するのが良いでしょう。

職業性難聴の聴力検査や書類記入は、労働基準監督署が定めるガイドラインにのっとり行われますが、詳しくは耳鼻科で相談できます。

この他にも…

ドクターからの健康アドバイス「ドクターズコンテンツ」
サイトでは様々な症例をご紹介します。

- どのような職業の人がなるの?
- 労災申請するとどんな手当が受けられるの?
- 職業性難聴の労災申請 Q&A

アイチケット広場



パソコン



スマホ



キータイから

[http:// park.paa.jp](http://park.paa.jp) /

